



過去の気象データ・ダウンロード	 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	でできること
検索条件	選択済みのデータ	2월 0% 100% (上限)
地点を選ぶ 項目を選ぶ	期間を選ぶ 表示オプションを選ぶ	画面に表示 ▶
 データの種類 ? 詳細 ● 時別値 ● 日別値 ● 7 ● 日別値 ● 7 ● 日別値 ● 半旬別値 ● 旬別値 ● 月別値 ● 3か月別値※ 	 <u>項目選択の使い方</u> すべての選択済みの項目をクリア <u>過去の平均値との比較オブション 平年値も表示 『平年値からの差(比)も表示 (平年値:1981年から2010年の30年平均値) 前年までの 10 マ 年平均も表示 前年までの 10 マ 年平均からの差(比)も表示 </u> 	CSVファイルをダウンロード ► 選択地点・項目をクリア 選択された地点 観測項目 大阪 ② ⑦ ● ● ● ● ● ● ● ● ●
項目 気温 降水 日照/日射 7日間平均気温 日 日最高気温の7日間平均 日 日最低気温の7日間平均 日 7日間最高気温 日 7日間最低気温の7日間平均 日 日最低気温の7日間平均 日 日最低気温の7日間平均 日 日最低気温の7日間最低 日 日最高気温の7日間最低 日	積雪/降雪 風 湿度/気圧 雲量/天気 平均気温 0 → ℃以上の日数(7日間) 平均気温 0 → ℃未満の日数(7日間) 最高気温 0 → ℃以上の日数(7日間) 最高気温 0 → ℃未満の日数(7日間) 最低気温 0 → ℃以上の日数(7日間) 最低気温 0 → ℃未満の日数(7日間) 最低気温 0 → ℃未満の日数(7日間)	 選択された項目 7日間平均気温 削除 *平年値(すべての項目) *10年平均値(すべての項目) 選択された期間 2012年1月1日から 2012年12月31日までの前7日別値を表示 選択されたオブション
「項目を選ぶ」の O「データの種類」で「7日別 O「項目」で「7日間平均気況 O「過去の平均値との比較 「前年までの10年平均も	利用上注意が必要なデータを表示させない 観測環境などの変化以前のデータを表示させない ダウンロードデータはすべて数値で格納	



過去の気象データ・ダウンロード <u>■重要なお知らせ</u> ?	<u>このページでできること</u>
検索条件 選択	R済みのデータ量 0% 100% (上限)
地点を選ぶ 項目を選ぶ 期間を選ぶ 表示オプション	ッを選ぶ 画面に表示 ▶
利用上注意が必要なテータの扱い 統計値を求める際、統計のもととなる資料に大幅な(必要な資料の20%を超える)欠損があるため 利用上注意が必要なデータは	CSVファイルをダウンロード ►
◎ 値を表示(格納)する。ただし利用上注意が必要なことを示す情報をつける。	選択地点・項目をクリア
◎ 値を表示(格納しない。	選択された地点 観測項目
観測環境などの変化の前後で、値が不均質となったデータの扱い	大阪 🔗 😤 💽 🕶 削除
観測場所の移転、環境の変化、観測方法の変更などにより、その前後で値が不均質となった場合、 ◎ 観測環境などの変化にかかわらず、すべての期間の値を表示(格納)する。ただしデータの不均質を 示す情報をつける。	
●観測環境などの変化的の値を表示(俗称)のない。	選択された項目
ダウンロードCSVファイルのデータ仕様	7日間平均気温 削除 *平年値(すべての項日)
 ● すべて数値で格納(現象あり・なし情報、品質情報は数値で格納) 日付の形式 ● 日付リテラルで格納 ● 年月日などに分けて格納 ● データ表示画面と同様に、数値以外の記号を含む 	*10年平均値(すべての項目)
	選択された期間
その他	2012年1月1日から
□日付に曜日を表示(日別値選択時)	2012年12月31日までの前7日が順を表示
□ 都道府県名を格納(CSVファイルダワンロード実行時)	達扱されたオノション 利用 ト注音が必要なデーカを表示させたい。
	観測環境などの変化以前のデータを表示させない ダウンロードデータはすべて数値で格納
〇表示オプションはユーザーの必要に応じて選択します	



〇あとは、表計算ソフトでファイルを読み込み、グラフ機能でグラフを描画します。